

地域における性教育推進のための具体的方策の検討

中村 常定

・岡山県性教育協議会

要約：母子保健事業としての性教育への強い期待がありながら、その普及は充分とはいえない。岡山県では性の問題を母親として学びたいとして生れた母親たちの学習グループの動きがあり、地域での事業の発展的展開を考える上に一つの問題を提起するものといえよう。

今日の性環境が子どもに及ぼす影響を憂い、子どもの心とからだの健康を願う母親たちの、自発的な性と子育ての学習を進める集いがそれである。

家庭から学校へ、そして地域へはたらきかける実践行動によって関係行政の柔軟な対応を引きだし、地域をあげての取り組みへと発展させたものもある。

昭和50年度よりはじまった岡山県における性教育の実践にかかわり、昭和60年度以降、母親たちの性と子育てを学ぶ自主的グループの育成につとめてきた者として、愛育委員会が全県的に取り組んでいる十代妊娠問題に関わる活動と、学校における性教育の状況を取り上げ、地域における総合的な幼児期からの性教育の推進の上の問題を考察することとする。

見出し語：学校性教育、母たちの性と子育て学習、十代妊娠問題、愛育委員活動

経過と問題：

1. 吉井中学校の実践と母たちの集い

① 岡山県教育委員会より最初に研究指定された吉井中学校はPTA活動に重点をおき伝統的な人権教育の中に性教育を位置づけ、町行政との連携による地域ぐるみの実践をめざした。保幼小高との連絡をとりながら、系統的指導計画を作製したのは指定終了後であり、年々研修報告集を出版、自主的研究発表会も10年近く続けていたが、職員転出等により一時中断した。とはいえ意欲的に活動した教師たちは、転出先での性教育推進にあたり、岡

性協の結成に参画、その中軸として活躍している者が多い。

② 吉井町の母たちは性と子育ての集いを発足させた。昭和50年度研究指定校となった中学校のPTAで活躍したメンバーが中心となり、若い母親たちを加えて定期的な学習会が継続している。当時県内多数の妊娠中絶数に危機感をもった町行政と、PTA活動を重視する中学校との連携による地域ぐるみの性教育の実践の中で生れ断続的ではあるが、十数年近い歩みを続けている。

③ 性教育の伝統校といわれる吉井中学校の今日は学校の職員組織の変化をはじめ、いくつかの困難な状況にあるが、若い意欲的な教師グループは、岡山県性教育協議会での活動を通して、父母の交流、地域との一体化の重要性を認識し、来年度に向けての意欲的な活動をめざしている。新しい地域ぐるみの性教育の展開が期待されるところである。

2. 勝英地域保健所管内の自主的学習の動き

① 昭和60年、作東町の母たちは、子どもの雑誌の連載マンガを問題として母の集いを発足させた。環境から子どもをどう守るかどう育てるかに重点をおいた学習を展開。雑誌追放よりも、雑誌から目をそらさず何が問題かを明確にしていく取り組みや、少女たちの自立のための月経記録運動をすすめる等意欲的に取り組んでいる。

地元出身の教師たちは、母親として、町内の教師たちにも積極的に参加を呼びかけている。町の教育委員会も積極的に支持し、集合の案内等も町内各校、PTAに配布し予算的援助も行なっている。テレビ、雑誌記者たちにも何人かのリーダーは積極的に性教育の重要性を説いている。

② 英田町グループは、子どもの誕生についての疑問をもとに、手づくり紙芝居を100人1筆運動の中で製作、展示・上演し、リーダーの意欲的なはたらきかけにより、巾広く町民の支持を得て、町主催のシンポと講演会を実施し、心とからだの健康づくりの性教育の実施計画をすすめている。「受身では意識を変えることはできない。

多くの情報から学ぶと共に身近かな問題を話し合い実践し、行動する中でこそ、人間の性に対する正しい意識はつくられる」とリーダーは主張する。母たちの手づくりのぬくもりを子育てに生かそうという主張と共に、それは多くの人々の共感を生んだ。手づくり紙芝居はテレビ、新聞等で報導され、県内各地の保健所、PTA等に巡回され、県外からも自主的学習活動について学びたいとの来訪があった。

③ 村民のユニークな健康づくりをすすめる西粟倉村では、一昨年度より学校の性教育実施をはじめ、健康副読本を作製、専門家による教師たちの研修講座を行い、地域ぐるみの健康づくりがすすみ、親たちの学習グループづくりにとりかかっている。

美作町グループは、作東のグループに参加している若い母親たちのはたらきかけにより、町内の指導者を中心に青少年育成活動として発足。町教委の支援をえて、町内のすべての学校のPTAの内からも出席を求め、学習会を展開している。

3. 母たちの自主的学習とそのひろがり

① より積極的に活動したのは柵原グループである。十数年続けた子育て母の会が、本格的に性の問題に取り組んだのは、昭和60年度以降である。有力なリーダーを軸に積極的な活動を続け、翌年には性教育全国大会で発表、テレビ等で紹介されるに及んで町内でも反響を呼び、グループの活動を基盤として保健課と愛育委員会は町の健康まつりに性教育の資料展示を行ない、思春期と高齢者の性をとりあげたペープサートを

創作上演し、性教育ビデオ数本を購入した。町の連合PTAは昨年度より連続講座を組み、各小中学校は単Pの研修と授業の公開を実施している。そうした実績の上になって町教委事務局が中心となった全町の実施委員会を作り計画化をすすめている。

美作町の豊田小学校は、全校性教育を実施しているが作東町グループで母親として参加した教師とPTA役員との意欲的な取り組みがその基盤にあった。

小人数ながら2年近く毎月学習会を開き多様な学習をすすめている山陽町グループにも最近、PTA、愛育委員等の参加者が現われてきた。学校や地域の性教育実践推進の力となることが期待される。

- ③ 連帯し、子を産み育ててきた体験をもとに、人間の性の真実を語り合う母たちの集いは、しかし決して順調にはすすまなかった。

誤解や中傷、それを気にして参加をためらう人々を支え励ましつづけたリーダーたちはみな困難を超えるための苦しみを体験してきた。「講演を聞いての感動よりも、苦しみをのりこえて育ててきた創造のよろこびの方がどんなにか嬉しい」とリーダーは述懐する。

それぞれのグループは特色ある学習をすすめながら、リーダーの交流、資料や情報の交換等で連絡をとりあい、地域や学校への取り組み、保健所や教育委員会等へのはたらきかけ等対外的な活動面にも取り組みをすすめるようになっている。

4. 十代の性と保健活動

- ① 岡山県における十代の中絶問題に正面から取り組んでいるのは、平成1年度より県から事業委託を受けている岡山県愛育委員会である。県内すべての市町村に組織されている愛育委員たちは、保健婦の手足となって住民の健康の維持増進の仕事をすすめているが、従来十代は学校保健にゆだねられてきたため、愛育委員自体の研修が不可欠であった。県内の各地域・環境保健所の積極的な指導援助により、愛育委員・栄養委員をはじめ、幼児クラブ、家庭学級役員たち、小中学校PTAの参加を求めた講演や講座が展開されるようになった。

- ② 岡山市保健課は、性に関する電話相談の業務開始計画のため、すべての保健婦を対象とした研修講座を組み、各担当区毎に愛育委員や若い母親対象の研修会を開催しそれぞれ特色ある活動をすすめている。

地区内の学校やPTA健全育成機関と連絡を深め、自主的グループの育成にも意欲をもつ富山区。小学校のPTA活動を積極的にすすめる中で性教育への自主的学習を展開する旭操区。

教師の意欲的な取り組みにより地域全体への浸透をはかる、高松・幡多・岡南区。区長に支えられて幼稚園とPTA、幼児クラブの若い母たちの自主クラブをつくり、一般への普及をめざす竜之口区。講演会から人形つくりへと活動をすすめる妹尾区等。

- ③ 高梁環境保健所は、短期大学設置により若者の変ぼうする中で、連合PTAの積極的取り組みを生かし、県主催のシンポと講

演会、資料展示を行い、教育関係と連携した思春期保健を組織しており、倉敷南保健所は、青少年健全育成活動とタイアップした講演と懇談のあと、保健医療、教育関係機関を統一した思春期保健の組織をつくり所長を座長に継続的に活動を計画している。

西大寺保健所は、所長の対外活動と共に管内公民館での思春期講座を開設、性教育人形づくりも実施し幅広い性教育の推進をはかっている。

十代中絶半減運動を通して、性教育の認識を深め、より豊かな性意識こそ生涯教育理念に沿う充実した生き方に深くかかわるものとしての研修や活動が展開されている。

5. 学校、教育行政による性教育の実践と問題

① 昭和50年度、はじめて性教育の名称を用いた岡山県教育委員会は、県下の中学校に限って2年連続の研究指定の学校を設け、生徒指導の実践をすすめた。主管は指導課である。

保健体育課関係では、学校保健研究会による全県研究大会、郡市別研究会での性教育の実践の報告、討議をつづけている。岡山・倉敷・玉野等市教委でも研究指定校による研究実践をすすめており、岡山市教委は小・中別の指導手引書を作製、ふみこんだ内容を取りあげており、毎年小・中学校別関係教師の研修講座を開設、普及につとめている。指定校の発表や資料は性教育実践に大切な役割を果たしている。しかし指定期間の後、熱心だった教師の転出後も研究実践を継続する学校は少ない。

② 県医師会作製の専門医による性教育手引

書は各学校医におくられ、県性教育アドバイザー等による青少年課作製の“家庭における性教育ABC”は昭和59年度より毎年1部ずつ計パート5まで出版され、教師・PTA等に無料配布されているが、積極的利用は少い。学校における性教育の充実を望む声は大きい、意欲的な教師たちのすぐれた実践を紹介し、父母や地域との連帯をはかり、地域ぐるみの性教育をすすめるものの一つに岡山県性教育協議会がある。会員500名は、親たちや教師の外、医療保健関係、補導関係等多様であり、機関誌を通して情報を伝えあい、家庭・学校・地域での連携した実践の必要を説き、自主的集いの動向を伝える。毎月地域別研修会を開き、毎年の研究大会は700名を超える父母や教師たちが参加する。

全体会には保健・教育・地域の三部門の代表がそれぞれ報告と提案を行い、それを受けて分科会では学校種別の外、家庭・地域の二分科会を設けグループ討議、ロールプレイ、模擬授業等による交流と実践を深めあう地域ぐるみの性教育の必要を具体的な提示しつづけている。

自主的学習グループ参加の母親たちの何人かは会員であり、リーダーの多くは岡性協の委員として活躍しており、大会参加で学んだことを地域の学校に伝え、大会報告集会をもつグループもある。

考察：

① 母親たちの自主的活動の多くは予算的援助なしから出発する。

負担意識や義務的出席の心配もなく活動のわく組みもない。資料を持ちより、身近かな話題を出しあいながら問題の本質に迫っていく。

何回かの学習を続ける中で、行政の支持や援助を受けるようになるが、それまでに2年3年とかかっている。行政主導では見られない困難がある。それを乗り越えるのはリーダーの力と意欲によるところが大きい。リーダーを掘りおこし性教育の認識を求め、親たちの連帯の自覚を促す資料や情報の提供、それぞれの地域の特性を生かした具体的方策の検討をはじめ、対外的な発言や連携を支えるねばり強いはたらきかけの中でグループは成長する。住民サイドの草の根的学習グループに参加している母親たちは自信をもって学校や保健・教育行政へ発言していく。自発的参加や創造のよろこびを体験しながら学習活動を継続する中で性教育の重みをひしひしと実感するという。とはいえ必しもそれは強い粘着力をもつものになるまでには時間がかかり、挫折する危険をはらんでいる。行政の強い支援が必要なことはいうまでもない。

- ② 「学校で性教育を」との母たちの願いに多くの学校は応じきれないでいる。時間的制約と指導力の問題、資料不足等があげられるが実質は管理職の認識や理解が大きく左右する。教育課程の改訂によって一部関係事項が整理されたが、性教育は養護教諭の分担と決めつけたり、保健・生徒指導の担当として分割する考え方が根づよい。

善悪の価値観に基づく伝統的道德観と学校運営の閉鎖性は子どもの実態から学び、親たちの願いを教育に生かすための障害となって

いる。性の問題を避け、性の抑圧による問題解決を考える指導があるとすれば教師たちの貧しい性意識の改革のための教育が必要であるが教育養成機関の現状からすれば無理といわざるを得ない。

「子どもの生活に目を向けたとき、性の問題から逃げることはできない」とする教師たちも多い。意欲的な教師たちと理解ある管理職のいる学校では、いくつかの困難を克服してその実践の効をあげている。地域ぐるみの人権の教育を本格的にすすめてきた本荘小・加茂小・香和中・吉井中等では継続的实践が進んでいる。地域との連帯の中にこそ学校の実践は生きてくるのである。

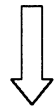
- ③ 思春期保健事業の推進は関係するあらゆる機関の密接な連携なくしては実のりあるものにならないといわれてきた。とくに行政の縦割による障害の壁を、母親の立場で乗り越え統一的な組織を町村単位でつくろうとした柵原町や英田町があり、高梁や倉敷南の保健所にみられるような他機関への意欲的はたらきかけによる統合的な推進への動きもあるが思春期における問題行動への対処に追われがちな学校の積極的参加が問題の鍵となると考えられる。

幼児期からのつみ重ねを基本とした人間教育としての性教育をとの母親たちの願いは思春期の十代中絶半減運動をすすめる愛育委員たちの共感をよんでいる。生涯教育としての性教育を地域ぐるみで推進する活動の一環としての思春期の性教育の普及にいつそうの努力をつづける事が必要であろう。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:母子保健事業としての性教育への強い期待がありながら,その普及は充分とはいえない。岡山県では性の問題を母親として学びたいとして生れた母親たちの学習グループの動きがあり,地域での事業の発展的展開を考える上に一つの問題を提起するものといえよう。今日の性環境が子どもに及ぼす影響を憂い,子どもの心とからだの健康を願う母親たちの,自発的な性と子育ての学習を進める集いがそれである。

家庭から学校へ,そして地域へはたらきかける実践行動によって関係行政の柔軟な対応を引きだし,地域をあげての取り組みへと発展させたものもある。

昭和 50 年度よりはじまった岡山県における性教育の実践にかかわり,昭和 60 年度以降,母親たちの性と子育てを学ぶ自主的グループの育成につとめてきた者として,愛育委員会が全県的に取り組んでいる十代妊娠問題に関わる活動と,学校における性教育の状況を取り上げ,地域における総合的な幼児期からの性教育の推進の上の問題を考察することとする。